

新たな振興計画（素案）説明資料

沖縄21世紀ビジョン 基本理念
～時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い
豊かな「美ら島」おきなわを創造する～

復帰50年 これからの10年 「新時代沖縄」の方向を示す

新たな振興計画（素案）



沖縄県

【計画策定の意義】

本土復帰を果たしてから50年の節目を迎える。

復帰後、本県の4つの特殊事情に鑑みて、沖縄振興特別措置法に基づく各種特別措置が講じられ、社会資本の整備等により各分野における様々な格差が縮小されてきた。しかし、自立型経済の構築はなお道半ばにあり、一人当たり県民所得は全国最下位を脱しきれずにいる。

一方で、本県が有する地域特性である

- 我が国の南の玄関口に位置する地理的特性
- 南西端の広大な海域を確保する海洋島しょ性
- アジア諸国との交易・交流の中で培ってきた歴史的・文化的特性など

本県の潜在的な発展可能性



我が国全体の発展



国家戦略としても重要な意義

【計画期間】：10年間（令和4年度～令和13年度）

【計画目標】

社会・経済・環境の三つの側面が調和した「持続可能な沖縄の発展」と「誰一人取り残さない社会」を目指すとともに、アジアをはじめ世界との経済の架け橋となるなど、「沖縄21世紀ビジョン」で掲げた5つの将来像の実現と4つの固有課題の解決を図り、自立的発展と住民が豊かさを実感できる社会の実現を本計画の目標とする。

沖縄21世紀ビジョン～時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い豊かな「美ら島」おきなわを創造する～

将来像 1
沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島

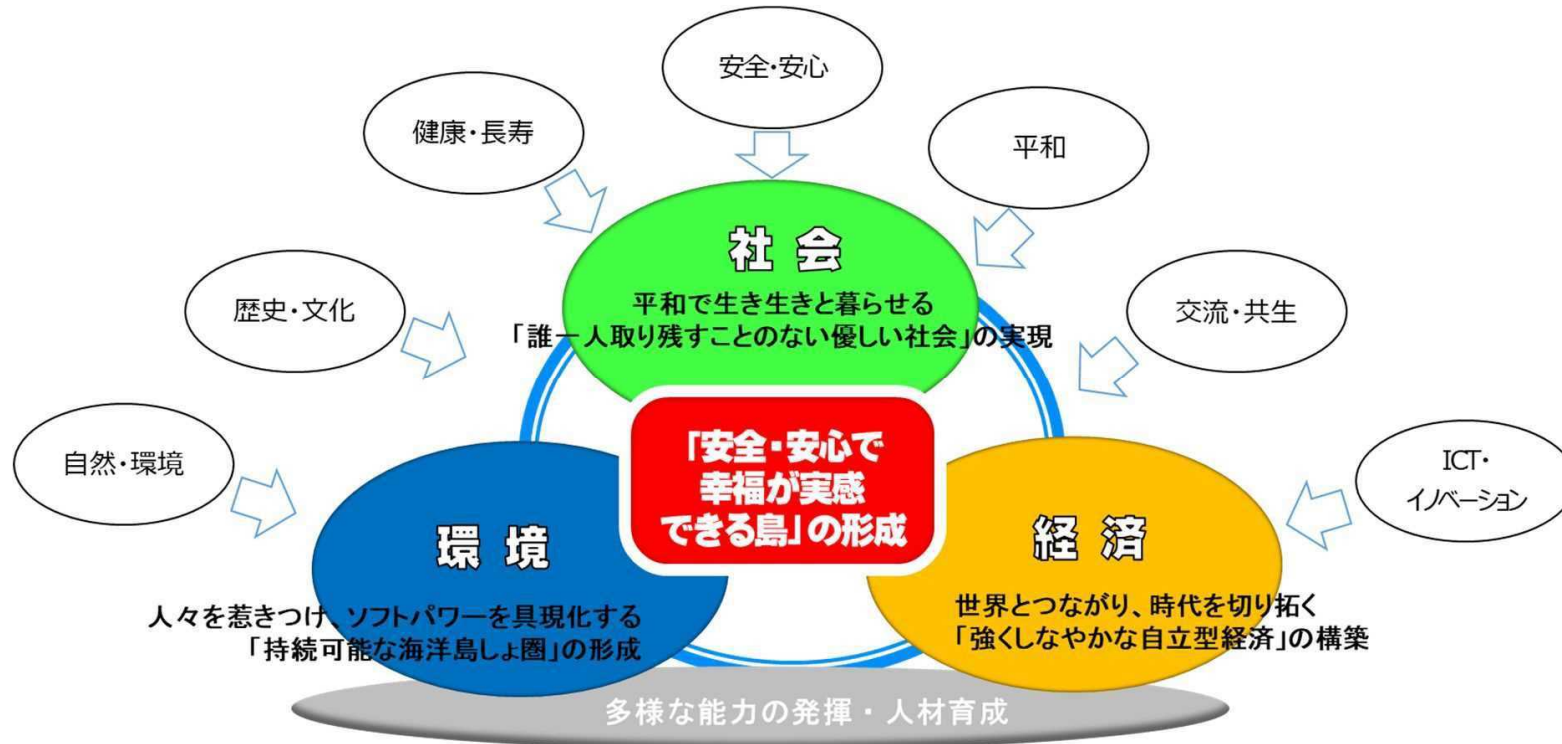
将来像 2
心豊かで、安全・安心に暮らせる島

将来像 3
希望と活力にあふれる豊かな島

将来像 4
世界に開かれた交流と共生の島

将来像 5
多様な能力を発揮し、未来を拓く島

施策展開の基本的指針 「安全・安心で幸福が実感できる島」の形成



SDGs を掲げた2030アジェンダは、社会、経済及び環境の三つの側面を不可分のものとして調和させる統合的取組を目指している。

「沖縄21世紀ビジョン」の将来像とを連動させ、総合的な課題解決の視点とともに、将来像の実現に向けた施策を展開するため、社会・経済・環境の3つの枠組みを設定。

社会・経済・環境の統合的取組（展開イメージ）

社会

離島における
安全・安心の確保と
魅力ある生活環境の創出

定住条件の整備、IT基盤整備・活用など

不利性克服
人材育成

経済

世界に選ばれる
持続可能な観光地の形成
と沖縄観光の変革

サステイナブル・ツーリズム
質の高い観光、DXの推進など

環境

世界に誇れる島しょ型
環境モデル地域の形成

再生可能エネルギーの推進
EVの導入促進など

自然との調和

安全・安心で
幸福が実感できる島の形成
【誰一人取り残さない社会
持続可能な沖縄の発展】

雇用
交流

～我が国の持続可能な発展に寄与する先行モデル地域・テストベッド・アイランドへ～

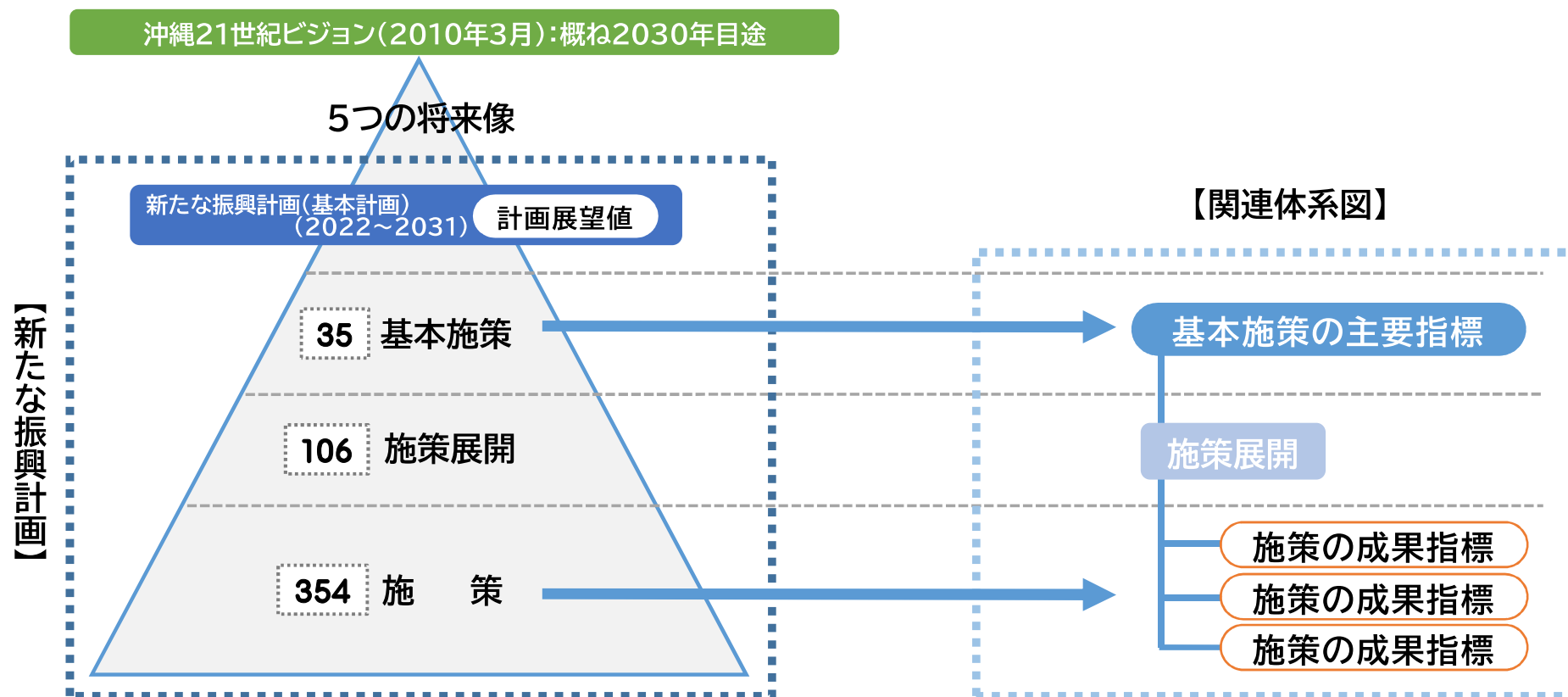
2050年カーボンニュートラル
環境立国の実現

海洋環境の保全・活用
海洋立国の展開

我が国の南の玄関口
観光立国をリード

新たな振興計画(素案)の体系

- 概ね2030年を目途とする「沖縄21世紀ビジョン」で掲げる将来像の実現や固有課題の解決を目指す。
- 計画の策定にあたっては、今回はじめて、各種施策の成果指標について、その上位にある基本施策の主要指標との「関連体系図」を並行して作成し、エビデンスを重視した計画づくりを行う。
- 関連体系図については、沖縄県振興審議会に「素案」の諮問と併せて提示し、指標の妥当性などについて審議していただく。



- 脱炭素島しょ社会に向けたエネルギー施策の推進
(再生可能エネルギー等の導入促進、次世代エネルギー等の研究など)
- 自然環境・生物多様性の保全・継承
(世界自然遺産登録地にふさわしい適正管理、国立沖縄自然史博物館誘致など)
- 海洋島しょ圏としてのSDGsへの貢献
(サンゴ礁等の保全・再生、海岸漂着物など海洋ごみ問題への対応など)
- 沖縄文化の継承・発展・普及
(しまくうばの普及、組踊、三線音楽、琉球舞踊など伝統芸能の継承・発展、伝統工芸の振興など)
- 「空手発祥地・沖縄」の強力な発信
(「空手の聖地・沖縄」の確立、ユネスコ向け文化遺産登録など)
- 首里城復興
(正殿等の早期復元、首里杜地区の歴史まちづくりなど)

- 子どもの貧困解消に向けた総合的な支援
(子どもの多様な居場所づくり、こどもの学習支援、ひとり親家庭等の支援など)
- 医療提供体制の充実・高度化
(公立沖縄北部医療センターの整備、ICTを活用した遠隔医療の推進など)
- 離島の定住条件の整備
(交通コスト等の低減、情報通信基盤の強化とICT活用など)
- ジェンダー平等の実現等
(男女共同参画、国際的な家庭問題への支援、性の多様性の尊重など)
- 危機管理体制の強化、地域防災力の向上
(沖縄県防災危機管理センターの整備、消防防災ヘリの導入の推進など)
- 戦後処理、米軍基地から派生する諸問題の解決に向けた対応
(不発弾処理対策の加速化、航空機騒音問題や環境汚染への対応など)

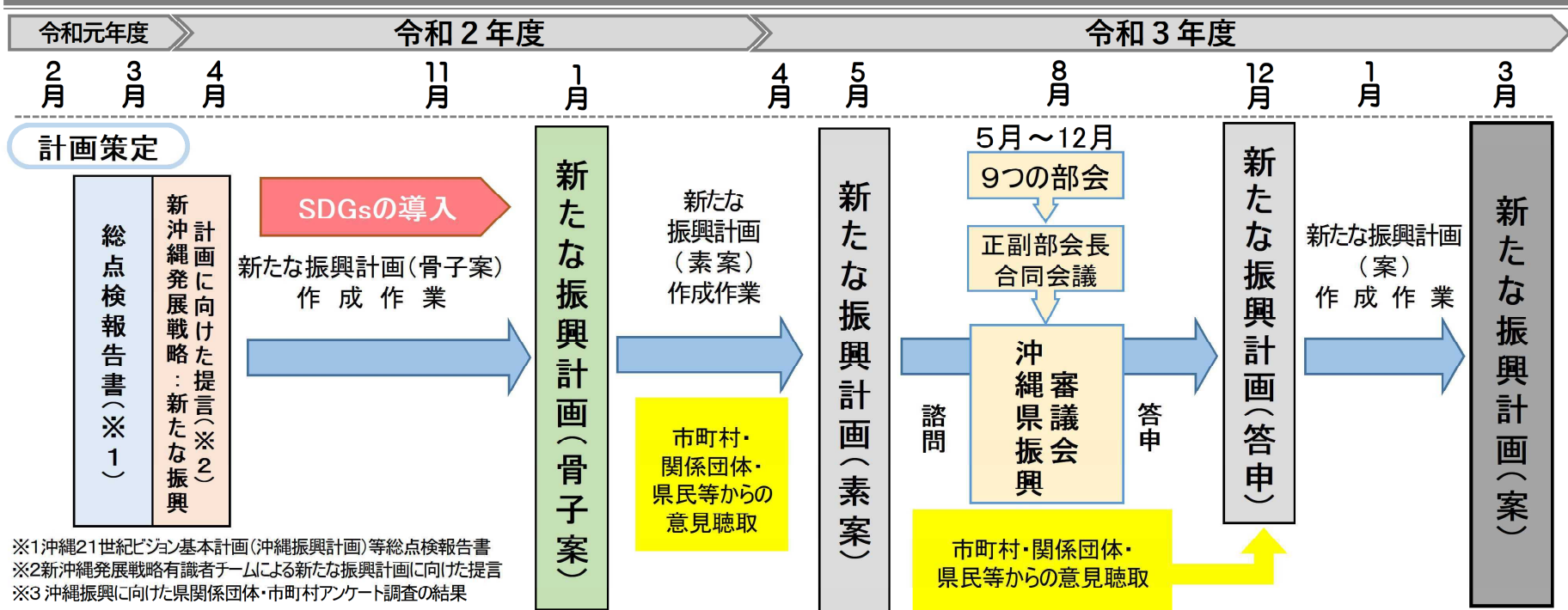
- 全産業における労働生産性の向上
(デジタル社会に対応した生産性の高い産業へDXの加速、人材育成への投資促進など)
- SDGsに適應する観光ブランド力の強化、DXによる沖縄観光の变革
(持続可能な観光地マネジメント、付加価値の高いツーリズム、ワーケーション拠点の形成など)
- 臨空・臨港型産業の集積促進
(付加価値の高い企業の集積、離島における航空・宇宙関連産業の展開など)
- 沖縄科学技術大学院大学等を核としたイノベーションエコシステムの構築
(大学発ベンチャー等の創出支援、イノベーション創出拠点の形成など)
- 農林水産業のイノベーション創出、フードバリューチェーンの強化
(デジタル技術を活用したスマート農林水産業の実証・普及、コールドチェーンの確立など)
- シームレスな交通体系の整備
(体系的な道路ネットワークの構築、利便性の高い公共交通の構築など)

- アジア・太平洋地域の平和拠点の形成
(平和を希求する「沖縄のこころ」の発信、平和ネットワークの形成など)
- 戦跡の保存及び活用
(第32軍司令部壕、県内各地の戦跡の保全など)
- ウチナーネットワークの継承・発展
(世界のウチナーンチュの日における様々な取組、次世代の担い手育成など)
- 世界の島しょ地域との国際協力・貢献活動
(グローバル・グリーン・アイランドサミットフォーラムへの参加・開催、パラオとのMOUなど)
- 沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成
(太平洋・島サミットなどのMICEやスポーツコンベンションの誘致など)
- 多文化共生社会の構築
(在住外国人等が住みやすい地域づくり、県民の異文化理解・国際理解の促進など)

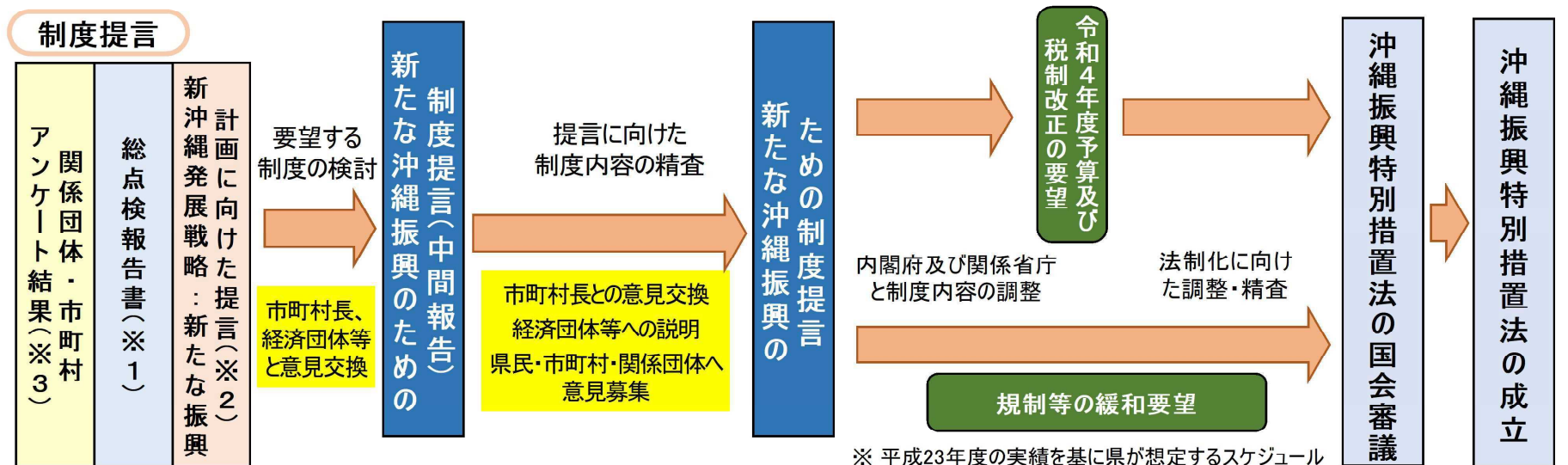
- 個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進
(解決策を自ら思考し、仲間と協働する「非認知能力」の育成、情報活用能力の活用など)
- 時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進
(インクルーシブ教育システムの構築、中高一貫教育の推進など)
- 国際感覚を身につける教育の推進
(アジア、米国、欧州等への留学・研修の充実、外国語教育の充実など)
- 多様な能力を引き出し、伸ばす教育の推進、地域の発展に寄与する高等教育の充実
(ICT教育の推進、産学官の地域連携プラットフォーム(仮称)の構築など)
- 医療・保健など地域を支える人材確保
(離島・へき地の医療を担う医師の育成・確保、県内国公立大学への薬学部設置促進など)
- 産業イノベーション創出を担う人材育成
(データサイエンティスト、サイバーセキュリティ人材、DX推進を図る中核人材の育成など)

新たな沖縄振興に向けたスケジュール（予定）

R3年6月時点



※1沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書
 ※2新沖縄発展戦略有識者チームによる新たな振興計画に向けた提言
 ※3沖縄振興に向けた県関係団体・市町村アンケート調査の結果



※平成23年度の実績を基に県が想定するスケジュール